

令和7年度（2025年度）

東海市幼児教育研究協議会事業報告

1 授業参観及び相互体験交流について

(1) 授業参観

① 授業内訳・参加者数

小学校名	授業科目	参加者	小学校名	授業科目	参加者
緑 陽	国2	6	船 島	国2	10
名 和	国3	17	大 田	図3	8
渡 内	算2	14	横須賀	国3	17
平 洲	国4	12	加木屋	国1 算1 学1 道1	16
明 倫	算1	11	三ツ池	国1 算1	11
富木島	国2 算1 生1	9	加木屋南	学3	11
合 計	授業科目…国18 算5 道1 学4 生1 音0 図3 外0 参加者…142人				

② 参観者・授業者の意見

＜幼児期に育まれた力が小学校の授業や生活にどのようにつながっているのか＞

- ・遊びの中で、文字や数に触れ、関心を高めたり、数的な感覚が自然に養われたりして学ぶ力につながっている。
- ・絵本や物語を楽しみながら豊かな言葉や表現を身につけたり、経験したことや考えたことを言葉で保育者や友達に伝えたりしたことが、友達の意見を聞いたり、言葉での伝え合いを楽しむ姿につながった。
- ・身近な物に興味を持って触れ合う実体験が、子どもたちのさらなる好奇心につながり、小学校での学習や生活への意欲につながっていると感じる。
- ・自分でできたという経験を積み重ねることで自信につながり、小学校での新しいことに挑戦する姿勢につながる。

＜協議会に参加して＞

- ・子どもの小学校生活の素地が、幼稚園、保育園での遊びの中で、楽しみながら主体的にかかわることで身につけていることがよく分かった。今後の授業においても、子どもが「楽しい。やってみたい。」と思えるような活動を学習に取り入れていきたい。
- ・子どもが「失敗しても大丈夫。苦手だけどがんばってみよう。」と思えるようなかわりの大切さを感じた。言葉の選び方や声のかけ方など工夫していきたい。

(2) 相互体験交流について

① 保育園・幼稚園・こども園から小学校への相互体験交流参加者（24人）

小学校へ	実施日	保育園・幼稚園・こども園から	小学校へ	実施日	保育園・幼稚園・こども園から
緑 陽	5月14日	一番畑	船 島	6月10日	富木島
名 和	6月 3日	名和・名和東・葵名和	大 田	6月24日	大田
渡 内	5月30日	渡内	横須賀	5月15日	高横須賀・横須賀・養父
平 洲	5月21日	平洲・木庭・めぐみ	加木屋	6月20日	加木屋(2)・memorytree 社山
明 倫	6月17日	みどり・明倫	三ツ池	6月18日	三ツ池・明佳
富木島	5月27日	東山・上野台	加木屋南	5月20日	大堀・加木屋南
			計		23 園 24 人

<体験者の感想>

- ・子どものどんな意見にも肯定的に返していて、子どもの言いたい気持ち、参加したい気持ちを大切にしていると感じた。
- ・45分間座っていられるのか心配だったが、授業に集中できる工夫がされており、楽しく学ぶことのできる場であった。
- ・小学校生活では、困ったことがあった時に、どうしたらいいのかを考え、動く力がより必要になると感じた。
- ・思っていた以上に、言葉の指示で動くことが多かった。
- ・子ども理解・情報共有が、何より子どもの学びの連続性を確保する上で、大切であると感じた。

② 小学校から保育園への相互体験交流参加者（11人）

保育園へ	実施日	小学校から	保育園へ	実施日	小学校から
一 番 畑	7月25日	緑 陽	大 田	8月 5日	大 田
渡 内	8月 7日	渡 内	高横須賀	7月25日	横 須 賀
平 洲	7月24日	平 洲	加 木 屋	8月20日	加 木 屋
明 倫	7月24日	明 倫	memorytree 社山	8月20日	加 木 屋
東 山	8月 5日	富 木 島	大 堀	7月28日	加木屋南
富 木 島	8月 5日	船 島	計		10校 11人

<体験者の感想>

- ・遊びの中で、自分の思いの伝え方や相手の思いの受け止め方を学んでいること、思い描く姿に向けて試行錯誤することで様々なことを学んでいることを知った。
- ・話を聞くとときや移動するときのルールを、保育者の声掛けにより自然と身につけられていると感じた。
- ・一人一人が、やりたいことができるような環境が準備されていた。

＜小学校へ持ち帰って伝達したいこと＞

- ・「やりたい」ということを繰り返すことで、学びにつながるということ。「やりたい」という思いを起こすことが大切。
- ・園では体験を通して、言葉で表現する活動をおこなっているため、スタートカリキュラムや一年生の1学期には、そのような活動を取り入れるとよいこと。
- ・子どもが、小学校に対して不安に思うことが、思いもしないところにある。安心して入学できるよう、小学校生活について知ることができる機会が増えるとよい。

(3) 円滑な連携のために大切に思うこと配慮すること

＜小学校＞

- ・保育園での生活を実際に見てみると知らないことばかりで、幼保小の連携はとても重要だと感じた。園は小学校に向けて少しずつ生活様式を混ぜて、小学校は園での実態を踏まえたカリキュラムを考えることが大切。
- ・保育園では1つの活動が長く時間がゆったりと過ぎていくのに対して、小学校は細かい時間で区切られており、生活のリズムが大きく変わるので、小学校でも時間を意識して見通しをもてるような工夫が必要であると感じた。
- ・幼児期に生活の流れや時間の流れを予測させたり、次の見通しが持てたりするような場面や機会があると、子どもの自立心が育つと思う。
- ・園と小学校の違いを学び、生活様式や学習様式の違いを見据えた指導や支援を行うこと。
- ・園と小学校がきめ細やかな情報共有をして、お互いを知ること。

＜保育園・幼稚園＞

- ・身の回りのことは、自分で管理する意識がもてるように、幼児期に整理整頓の大切さ、心地よさを感じられるようにする。
- ・困った時に友達や先生に助けを求められる力を育てること。
- ・小学校の先生から小学校についての話を聞いたり、実際に教室に入ったり、トイレを使ったりして学校が知っている場となることで、不安を軽減し期待がもてるようにする。

2 公開保育研究会について

研究保育共通テーマ「子どもの深い学びにつながる保育を考える」

(1) 実施園及び内容

実施園	月 日	中 心 課 題	講 師	参加者
雨尾幼稚園	7月31日(木)	<ul style="list-style-type: none">・ねらいや内容を達成するために環境構成や活動する内容は十分だったか。働きかけは適していたか。・どんな学びがみられたか。・自分ならこう働きかける。	日本幼保教育会 講師 小林まき子氏	23人

実施園	月 日	中 心 課 題	講 師	参加者
加木屋南保育園	8月5日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・「思ったことや考えたことを自分なりの言葉にして伝えている場面」「保育者の援助のもと相手の言葉に耳を傾けて遊ぶ場面」「友達のしていることの面白さが分かり、一緒に遊ぶ楽しさを感じている場面」「繰り返し試しながら、友達と遊びに必要なものを作っている場面」で保育者は子どもの姿をどのように支えているか。 ・「私だったらこうする」を考える。 ・小学校の教科の学びへのつながり。 	愛知淑徳大学 教授 岡田泰枝 氏	25 人
一番畑保育園	10月9日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の何を楽しんでいるか。 ・グループの子とどのようにイメージを共有しているか。 ・保育者がどんな点で子どもの活動を支えているか。 ・私だったらこうする。 	同 上	22 人

(2) 参加者の意見・感想

<雨尾幼稚園>

- ・子どもたちの気づき・思考に繋げるために、どのような声かけが必要で、どのような声かけは必要ないのか考えて保育している姿があり、子どもたちの気づきに繋がるとも大切な配慮であると感じた。
- ・話し合い活動を少しずつ取り入れていたりして、小学校での学習活動につながると思った。

○講話から学んだこと

- ・子どもたちが主体的に考える力を身につけるためには、考えることの楽しさを感じることが大切。
- ・子ども自身が、自分で探し・見る・比べる経験が試行錯誤へと繋がり深い学びになる。

<加木屋南保育園>

- ・自分がやりたいと思ったことに取り組む力の大きさに気づかされた。
- ・子ども同士をつなぐ意識が、子どもの興味関心や仲間意識を高め、深い学びにつながるのだと感じた。
- ・学校と保育園・幼稚園の違いについて大きく理解を深めることができた。

○講話から学んだこと

- ・主体的には二種類ある。一つ目は、良い子に見られるための社会的な選択。もう一つは、自分の内から出てきた「やりたい」を選ぶ利己的选择。子どもが、心の底からやりたいと思うことに付き合い、共に考え学んでいく中で深い学びが得られるようになる。子どもたちが五感を使いながら、体感的に学ぶ中で得られる深い学びを保障していきたい。

<一番畑保育園>

- ・子どもたち一人一人が役割を持ち、自分たちの力で遊びを展開していることに驚いた。
- ・その場に入り込める環境設定があり、役になりきったり役割分担をして友達とのやり取りをしたりして、楽しむ姿が見られた。

○講話から学んだこと

- ・物的環境として、視覚に訴えること・人的環境として共有することの2点に重きを置いて協同性を培う保育をしていきたい。

3 その他の事業について

(1) 幼稚園児と保育園児の保育交流

- ① 日 時 令和7年(2025年) 6月3日(火) 10:00~11:00
場 所 平洲保育園
参加人数 東海めぐみ幼稚園 5歳児 30人 平洲保育園 5歳児 25人
- ② 日 時 令和7年(2025年) 11月7日(金) 11:00~11:30
場 所 三ツ池公園
参加人数 明佳幼稚園 5歳児 102人 三ツ池保育園 5歳児 19人
- ③ 日 時 令和7年(2025年) 11月10日(月) 10:30~11:00
場 所 上野台幼稚園
参加人数 上野台幼稚園 5歳児 28人 東山保育園 5歳児 29人
- ④ その他
1月14日、2月10日 葵名和幼稚園と名和東保育園
1月30日 上野台幼稚園と東山保育園
2月 明佳幼稚園 と三ツ池保育園
3月 6日 雨尾幼稚園 と大田保育園

(2) 小学校と保育園の交流

① 名和小学校と名和東保育園

10月 小学校内を見学し、就学時健診で小学校に行くことの安心感に繋げる。

子どもたちは、校舎が大きいことに驚いていたが、体育の授業を参観し、就学を楽しみにする姿が見られた。

② 加木屋南小学校と大堀保育園

10月 加木屋南公園に行く際学校内を通り、学校の中を、先生に挨拶をしたりする。

11月 学校内を歩き、いろいろな教室を見たり、授業の様子を見たりして学校に親しみを持つ。

子どもたちは、少し緊張もみられたが、先生の話を真剣な表情で聞き授業の様子や職員室、保健室などを見学するときには、興味津々でとても楽しそうな様子だった。

トイレでは、和式トイレであることや扉が高く暗くなることに不安を感じる様子もみられた。

③ 緑陽小学校と一番畑保育園（予定）

12月 生活科で作ったおもちゃで遊んでもらい、年下の子に何かしてあげたいという気持ちから、がんばろうとする。

保育園児との交流を楽しむ。

1年生との交流を通して小学校に関心をもつ。

(3) 保育参観

令和8年（2026年）1月27日（火）13：20～15：30 養父保育園

令和8年（2026年）1月29日（木）13：20～15：30 大堀保育園

令和8年（2026年）2月10日（火）13：20～15：30 東山保育園

令和8年（2026年）2月13日（金）13：20～15：30 平洲保育園

(4) 第3回幼児教育研究協議会

令和8年（2026年）2月17日（火）15：00～ 東海市役所501会議室